



桜工

日本大学工科校友会

1977 No.58

会報目次

「巻頭言」会長挨拶	豊永権二	2	
本会創立27周年記念祝賀会開催	事務局	2	
日本大学工科校友会のあゆみ	事務局	3	
部会だより			
土木	土木部会長	5	
建築	建築部会長	5	
機械	機械部会長	6	
電気	電気工学科	6	
化学	工業化学科	7	
薬学	薬学科	7	
交通	交通部会長	8	
物理	物理部会長	8	
数学	数学部会長	9	
地方支部だより			
北海道支部	山形県支部	各支部長	9, 10
福島県支部	群馬県支部	同	10, 11
埼玉県支部	島根県支部	同	11, 12
鹿児島県支部	長崎県佐世保支部	同	12
職域支部だより			
東京都建設桜工会	下青木支部長	13	
本会記事			
昭和51年度定時総会概要	事務局	14	
本会役員、地方支部長合同会議概要		14	
学生に対する後援補助		15	
正会員終身会費昭和51年度納入者名簿	事務局	15	
地方支部名簿	事務局	17	



御挨拶

日本大学工科校友会
会長 豊永権二

昨秋9月母校の校風発揚を祈念すると共に会員相互の親睦を計るため工科校友会創立27周年記念祝賀会を東京プリンスホテルに開催いたしました処、総長先生始め多数の恩師先生並に諸先輩の御臨席を辱ういたし、且つ御懇篤なる御言葉を頂き盛会裡に旧交を温め合う事が出来ました事を改めて誌上をお借りして厚く御礼を申し上げます。不馴れの為非礼の点が多々御座いました事と存じ併せて深く御詫び申し上げます。今年は極めてきびしい寒波に見舞われましたがやっと春の息吹きを感じずる様になり、蛍雪の功を積まれて芽出度く実社会に巣立たれる卒業生の喜びと、きびしい試験の関門を通して入学される新入生の喜び、共に希望あふれる輝やかしい新しい出発でありまして心より御慶びを申し上げます。

今日多くの業界に共通して云える事は限りある需要を個々の企業が競争で奪い合う時代を迎えている状態で経済の低成長移行と共に需要の伸びは著しく鈍化して然も供給能力は需要の伸びに先行して増強され現実の需要に対して供給過剰になってゐるものが多く之は特に住宅産業に云へる事で、自社の供給に見合うだけの需要を確保する為に他社の勢力分野にまで踏み込んで需要を奪い取って来ると云う熾烈な現実であります(日本経済新聞による)又此の様な状況下に加へて資源問題更に新に漁業を含む食糧問題等緊急な課題が我々を取りまいております。内に対しては生産コストの低減を計り外に対しては制品の高付加価値化を要求される現在総ての産業に亘ってあらゆる条件に対応出来る技術感覚の函養と技術革新の確立と云う重大な責務を在校生と校友とを問わず負わなければならない時代に突入している現在であります。今日程若々しいバイタリティに富んだ優秀なる技術者を求められている時代はないと思ひます。変革甚しい現実を見きわめつつ青年らしい覇気と勇気を以て一層の努力をされる事を切望いたします。終りに臨み皆様の御健康をいのります。



本会創立27周年記念祝賀会開催

開催主旨

事務局

日本大学工科校友会は、創立以来27年有余になりました。創立当初の会員は27,600名有余名でありましたが、いまや93,000名を超える多数の会員をようするに至っております。母校を出られてから社会で活躍されている校友は本会あるいは、同窓会などを通じ相寄り技術の向上、情報の交換または相互の親睦をはかつております。

すでに25周年を迎えました際に記念祝賀会を開催すべきところでありましたが、財政その他の事情によって実施できなかったのが本年は創立記念の意義をも含めまた最近母校に大型構造物試験棟、大風洞実験室などが完成いたしました。この機会に会員が久かたぶりに一同に会し相互の親睦と母校の向上、展を祈念しながら、本会の創立27周年記念祝賀会を盛大に開催することになりました。

開催日時 昭和51年9月22日午後6時

会場 東京プリンスホテル
東京都港区芝公園

出席者 335名

内訳 来賓、鈴木日大総長他37名
理事相談役38名、地方支部役員25名、一般会員235名



加藤理工学部長挨拶

記念祝賀会は豊永会長の本会として開催主旨の挨拶につづいて、名誉会長である加藤理工学部長から大学側としての挨拶が行はれました。

来賓の祝辞として次の方々からそれぞれ祝辞を述べられました。



鈴木日本大学総長祝辞



柴田日本大学本部長祝辞

大学と校友会の関係は密接であり大学の発展のためには校友会は大きな力を持っていると祝辞を述べられた。



永沢同本部副会長祝辞

本会初代会長として佐賀日本大学常任理事。
来賓の祝辞につづいて日本大学農獣医学部校友会会長ほか7通の祝電披露があり祝宴にうつり乾杯を高橋法学部校友会長の音頭によって行はれました。全国各地から久方ぶりに再会できたことを互いに喜びあい、つもる話に日本大学吹奏楽団の明るい演奏や学生応援団によるいきいきした演舞がとけあって祝宴はいよいよ楽しいふんいきにひたった。祝宴が終りに近づいた頃をみはからい。大先輩の加藤勘十大学理事が母校のますます発展することを願いつつ万才三唱をもって盛会裡に記念祝賀会を終り三三五五とほろよい気嫌で夜の東京の芝公園から去って行かれました。



祝賀会場全景

日本大学工科校友会のあゆみ

事務局

◎本会が創立されたのは、終戦後の社会・経済ともに混乱期であった昭和25年ですから本年は27周年を迎えることとなります。発足当時の役員は佐賀直光初代会長のほか副会長4名と理事27名でありまして、全国府県のなかで地方支部として12県が結成されております。本会の予算としても総額102万円程度であって事業運営もなかなかできなかったようです。

その後本会の会誌としての「桜工」創刊号が編集委員の一方ならない努力によってようやく昭和30年

1月発刊されました。創刊の辞として佐賀初代会長は「校友会の存立意義を母校日本大学工科を中心として校友、教授、学生の三者が十分な相互理解と意志の疎通に努めてそれぞれの社会的発展のために密接不可分なる因縁をもつところの母校の充実振興のために外郭体として大きく尽くすこと」にあると述べられており。同じく古田理事長は「自主独立性のある民主主義を基盤とした学園の新しい理想を盛り上げて行くためには、全国に散在する校友各位の学園に対する深い関心と学園当局による建学精神の振興とがあたかも車の両輪の如き関係をもって推し進められねばならない」と述べられております。

◎桜工会誌委員

委員長 伊藤和雄(化学)
委員 下青木秀吉(土木)
" 黒瀬元雄(機械)
" 木村吉己(土木)

委員 山内盛(薬学)
" 平栄(薬学)
" 松井嘉孝(建築)

委員 河村陽男(電気)
" 小池昭一(建築)
" 山田翠(化学)

編集後記

昭和51年度卒業の新会員を迎えるときになりました。毎年念願しながらできなかった卒業式で本誌をくばることが、今年は事務長の吉丸さんのご努力で実現しそうです。桜工が大学と会員各位を結ぶ強いきづなになって 校友会の発展につながることを念願し、委員一同次号は一層充実したものにしたいとすでに来年のことを考えています。皆様のご援助、ご助言をお待ちします。

©昭和52年3月22日発行 ©編集兼発行者 / 伊藤和雄©発行 / 日本大学工科校友会 (東京都千代田区神田駿河台1-8 / 電話東京293-3251内線206 / 振替・東京3-162710) ©印刷 / 光星印刷株式会社
(東京都千代田神田神保町1-30)
